

奈良女子大学 国際交流センター



NEWSLETTER SPECIAL EDITION H29 グローバル女性人材養成プログラム (ニュージーランド) 特集

PROGRAMME

2018年2月15日(木)～3月14日(水)の28日間、海外協定校であるリンカーン大学(ニュージーランド)にて短期英語研修が行われ、奈良女子大学から24名の学生が参加しました。

リンカーン大学の英語授業は、Academic Writing、Reading、Listening/Speaking、Research Skillsがあり、特別講義として「マオリ文化」、「ニュージーランドの家族」、「ニュージーランドの女性」を受講しました。また研修者は後期「異文化理解と平和構築」を履修し、プログラムの目玉であるクライストチャーチ市カンタベリー日本人会主催の日本祭「カンタベリージャパNDER」に出展しました。研修中はニュージーランドの家庭にホームステイし現地の生活を体感しました。この特別号では、研修者の感想を通してプログラムの内容を紹介します。

HOMESTAY

ホームステイをすることでニュージーランドの家族、食事、文化など体感することができました。研修者の9割がホームステイをして良かったといっています。

- 家族同士の仲が良く留学生に関心を持ち優しく接してくれた。学校から帰ると毎日「今日はどうだった」と気にかけてくれ、拙い英語にも耳を傾けてくれ嬉しく感じた。ホストマザーが住宅関係の仕事をしていたため、私が建築を学んでいることを伝えると、オフィスや売りに出されている中古物件へ連れて行ってくれ、建築材料や建て方についても説明してくれた。食事は美味しく、ソースなどは初めにトライをさせてくれて気遣いを感じた。家は大きく庭までも綺麗に整備されており、洗濯物の干し方やベトナムメイクなど家事のやり方の違いも興味深く、とても楽しく過ごすことができた。
- ホストマザーは仕事もしている、とても忙しい方ですが、毎日体調や学校での出来事を確認して下さり、洗濯や掃除もこまめにしてくださいました。また、到着した最初の週末には車で様々なところに連れて行ってくださったり、伝統的な食事であるというフィッシュアンドチップスを食べさせてもらったりもしました。一人部屋ももらえ、シャワー時間等は自由でした。食事は朝と昼はセルフサービスですが、夜は毎日作ってくださいました。滞在環境はとてもよく、気にかけてもらっていたので快適に過ごせました。

Canterbury JAPAN DAY

今年のカンタベリージャパNDERでは、「日本の夏」をテーマに開催されました。奈良女子大学からは、「七夕飾りの作成」、「書道体験」のブースを出展しました。ステージ発表では、「ラジオ体操」と英語由来の「若者言葉クイズ」(例:ワンチャン=One Chance)を行い会場を盛り上げました。

- 出展にあたり自分たちで一から企画を考えること、どのようにすれば人々に楽しんでもらえるか工夫すること、また日本の文化を紹介することにあたって日本文化の魅力の再発見をすることができ、それをどう英語で伝えるか学ぶことができました。
- カンタベリージャパNDERに多くの現地の方々が来られており、日本に関心がある海外の方は多いのだなと改めて実感。また、私は野外のステージ発表を行ったのですがニュージーランドの観客の方たちは日本人よりもノリがよく、発表をしている側も楽しく発表できました。展示のブースで質問を積極的にされている方や歩いているときに日本語で話しかけられたりする方など積極的にコミュニケーションをする人が多いなと思いました。
- 現地の日本人の方が、日本人としてのアイデンティティや文化を大切にしながら助け合って生活していると思いました。また、私は体験班だったので、イベントに来た方々とブースで話をしながら企画を行うことができ、様々な国の方が日本の文化を美しいものとして知っていることを知りました。移民が多い国だからこそ、お互いの文化や特徴を尊重し合っているのだろう、と考えました。

ENGLISH CLASSES & HOW THEY IMPROVED THEIR ENGLISH

リンカーン大学既存プログラム、English for Academic and Professional Purposes (EAP)ではレベル別にクラスを受講し多国籍のクラスメートと一緒に英語を学びました。

- EAPの英語プログラムの中で最も驚いたのは、**周りの学生の授業への関わり方**だった。学生たちは、先生が説明しているときに、先生がこれからホワイトボードに書くであろうことを予測して、思いっぴきまにどんどん発言していた。
- EAPプログラムでは多国籍かつ広い年代の学生と触れ合うことができました。高い志を持つ留学生ばかりで、**自分の将来についても具体的に理想像を持ちたい**と思うきっかけになりました。他国の国民性も少し感じました。具体的には授業中の学生側からの発言が積極的にされていて、講義の内容について学生自ら考えるという姿勢が身についていると感じました。
- 英語を耳にするとき、以前よりも何を言っているのか理解できるようになり、そのようなときに自分のリスニング力が向上したと感じます。また、**英語で日常会話することにも抵抗がなくなり**、そのようなときに間違えを恐れて外国の方と話すのをためらっていた今までの自分と比べて成長を感じます。また、ライティングについてもどのような構造で書くのが正しい書き方を理解したことによって今までよりもよりいい内容の作文を書けるようになったと感じます。
- 最初のテストでクラス分けをされたが、同じクラスの中国人やほかの国の生徒は自分よりもはるかに語学や知識があることに驚いた。私は英語が好きで、文法やリーディングの力はそんなに変わらないと思ったが、リスニングやスピーキングになると、ほかの国の生徒たちにまったくついていけず、悔しかった。また、日本の経済や社会問題について聞かれたときに、ほとんど知識がなく、自分の意見もなかったため、**まずは日本のことについてしっかり知りたかった**。

DISCOVERY IN NEW ZEALAND

約一ヶ月間、ニュージーランドに滞在したことで、ニュージーランド人と生活し、多国籍な学生の中で勉強することで、自分の「価値観の変化」を語っている学生が多くいました。学生達がニュージーランドで発見したこと、感じたことを紹介します。



価値観の変化

今 回のプログラムで海外に滞在し、現地の方以外にも様々な国の出身の人と関わり、日本は世界の中の一部であることを強く感じた。これまでは日本でしか生活したことがなかったため、気づかぬうちに多くのことに対し、日本での慣習が世界でも標準であると勘違いしていたようだ。 町の様子や自然の美しさなど目に見える日本との違いだけでなく、社会システムや生活スタイルなどカルチャーショックを受ける日々は新鮮で楽しく、海外生活のおもしろみを感じた。これまで日本での生活に満足していたが、世界中には日本より好ましい所がある可能性を感じ、海外を生活拠点にするという将来の選択肢を増やすきっかけになった。



精 神的な面では、何事も挑戦し積極的に動くことが、生活を楽しくしてくれるし、自分の経験値を上げることにつながる気がした。いろいろなところに行き、様々な物を見て、たくさんの人と話すこと、それもまた学校での勉強とは違った一つの英語の勉強だとも思った。



授業を受ける姿勢

私 がニュージーランドにきて感じたことは国際色の豊かさです。ニュージーランドには色々な国の人たちが住んでおり、様々な国の文化が融合している国であるように感じました。私のホームステイ先のファミリーはイギリス人で学校の先生の話すニュージーランド英語の発音とは異なる英語の発音で話すため、最初のころは聞き取りにくく苦労しました。一方、学校では留学生が多いクラスで勉強していたこともあり、それぞれの国で英語の発音が異なり、聞き取りやすいものや聞き取りにくいものなど様々で興味深く感じました。また、どの国の人たちも勉強に対して熱心な人が多く、日本の大学生と比べると日本人は全体的に見て勉強量が不足しているのではないかと感じました。



二 の研修プログラムにより獲得したことは大きく2つあります。1つは「英語力」です。リンカーン大での授業初日、私は戸惑いました。なぜなら、想定以上に英語が聞き取れなかったからです。しかし、帰るころには先生のジョークが分かるようにもなりました。もう1つは「積極性」です。他国の留学生はとても積極的に授業に参加します。そして1つの事象に対して確固たる自分の意見を持っています。 自らの内気さ、無知さを痛感しました。また、多くの留学生や現地の人々とコミュニケーションをとることにより、国際交流の面白さに気が付きました。多種多様な考えや文化に刺激を受け、自らの視野が広がりました。



出会い

ホ ストマザーとの出会いは私にとってとても大切な出会いとなりました。ホストマザーはとても前向きな人で、「My life is best!」と言い切るほど自分の人生に自信を持っている人でした。自分に自信を持つことができなかつた私は彼女の考え方をとても素敵だと思い、彼女のような女性になりたいと思いました。帰国する前日に自分は自信を持つことができなかつたという悩みをホストマザーに話したら親身になって話を聞いてくれ、自信を持つべきだと励ましてくれました。このような悩みを私は今までだれかに打ち明けたことはなく、遠い異国の地で自分の悩みを打ち明けられることができるような人と出会えたのはとても貴重な出会いであったと思います。



現 地の人はとても明るく優しく、例えばバスの運転手さんは、乗るときはHelloと言うのはもちろん、How are you? とまで聞いてきてくれたり、降りるときはByeやHave a good dayなどと、一人一人に声かけをしてくれたりしてすばいなと思った。また、乗る側も、みんな降りる時に必ずThank youと大きな声で運転手さんに声かけをしながら、日本人よりも礼儀正しい人々だなと思った。当たり前のことを当たり前にするという意味が分かった気がした。

マ オリの文化に関する講義について、マオリの儀式の動画を流す時に講師の方が「絶対に笑わないでください」と言ったことが印象的だった。このように前もって言うということは、今までに笑われた経験があるからだと思います。何気ない反応や行動が相手を傷つけることになりうるので、文化について意見を述べるときは慎重になるべきであり、異文化の価値を理解することは難しいと改めて思った。日本では異文化に触れる機会は少ないので貴重な時間だった。

ニ ユージーランドの女性と家族についての講義では、大統領が女性でしかも姓婦であったという話が最も印象に残った。基本的にニュージーランドでは日本よりはるかに女性の社会進出が進んでいるなと思った。

ジ エンダーンについてのお話は、ニュージーランドが世界で初めて女性に投票権を与えたということ、政治界に進出する女性が比較的多いことなど、興味深く思った。全体的に考えて、私は特別講義から、ニュージーランドは日本よりもマイノリティーへの対応が手厚く、人々の問題意識が強いということを学んだ。

特 に女性の権利や世界女性デーについての講義はとても印象に残っています。ニュージーランドと日本の女性の共通点や相違点についてディスカッションしたことで、改めて日本の女性が世界的にどう見られているのか認識することとなりました。また日本に比べて海外の方が男女差についてはリアルに考えているのだとおもっていましたが、ニュージーランドでも性差に関して認識の問題があることがわかり、驚きました。

キ ーウィの生活スタイルをデータで見たことで、ホストファミリーと生活している中で抱いた疑問や発見がニュージーランド社会では当り前の事柄であることや、特殊であることを知ることができた。ニュージーランドは女性の社会進出が日本に比べ大きく進んでおり、女性はこうであるべきといった固定観念に縛られず自由に将来を選択している印象を受けた。



FUTURE

- ニュージーランドでの生活は、日本に留まらずに色々な町や国へ目を向け、今後の長期留学や海外での生活を見据えるきっかけになった。専門の分野では、ニュージーランドで見た建物をヒントに設計課題に取り組んだり、日本人ならではの固定観念にとらわれずに物事を考えてみようと思う。とにかく英語力の未熟さを知ることができたので、この経験を忘れずに勉強を頑張るモチベーションにしていこうと思う。
- 世界には今の私の「当たり前」が通用しないことがたくさんあり、もっと柔軟な考え方を持たなければいけないと思った。そして、物事を考えるときには先入観を持ちすぎることなく相手が何を考えているのかを考えながら行動しようと思った。また、国による社会制度の在り方(義務教育や女性の社会進出、同性愛者への対応など)は大きく異なることも分かったので、これからは日本だけでなく他の様々な国でのそれぞれの問題に対する考え方にも興味を持ちたいと思った。



奈良女子大学 国際交流センター
NEWSLETTER NZ特別号 2018年5月発行

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

TEL: 0742-20-3736

Email: iec@cc.nara-wu.ac.jp

<http://www.nara-wu.ac.jp/iec/center/ja/index.html>